

母校の歴史を胸に――

～未来に向けた新たな歩み～



前沢区内の7小学校が、4月の統合に向けて平成26年3月31日に閉校します。それぞれの小学校は、地域の風土や環境に合わせて歴史を刻んできました。ここでは、閉校となるそれぞれの小学校の歴史から、地域との関わりや学校の特徴などを振り返りつつ、新たな統合小学校に期待される姿に迫ります。

赤生津小学校の校庭で元気に遊ぶ子どもたち

小学校統合の経過と 統合前沢小学校の目指す姿

小学校の歴史をさかのぼると、明治5年の学制発布を受けて、現前沢区内でも次々と小学校を開校。以来、地域が子どもたちの学びの場を支え、そこに住む人たちが見守りながら長い歴史を刻んできました。

そんな中、少子化の問題や校舎の老朽化への対応から、旧前沢町時代の平成15年、前沢区内7小学校の統合に向けて検討を開始。16年には「7校を1校に統合する」との方向性を示し、それ以降、保護者や住民の皆さんへの説明を行ってきました。その後、市町村合併により奥州市が誕生し、新市建設計画に盛り込まれたこの小学校統合。変化の激しいこれからの社会を生き抜くために必要な「確かな学力」「豊かな人間性」「たくましく生きるための健康・体力」などの「生きる力」を育成する学校施設の建設を進めてきました。

統合前沢小学校は、それぞれの小学校で培ってきた歴史や伝統を尊重しながらも、子どもたちが切磋琢磨し、健やかに成長する環境を整備するものです。そして「新しい奥州を担う人づくり」を念頭に、家庭や地域と手を取り合い、次代を担う子どもたちの育成を目指しています。



稽古で熱心に指導する美喜子さん

前沢海洋センター2階の柔剣道場に、張り詰めた空気が漂う。合気道の指導を行う菅原美喜子さんは、生徒一人一人の細かい動きに目を配る。高校卒業後、体育教師を目指し、東京女子体育大学に進学。武道の世界に興味のあった美喜子さんは、入学して間もなく、合気道多田塾月窓寺道場の門をたたいた。そこで多田宏師範（現在、(公財)合気会9段）と出会い、瞬く間に合気道のとりことなった。大学卒業後は、都内の私立高校で14年間教鞭を執った。

その間も合気道を続けていたが、平成7年に「修行の傍ら指導を――」と、友人の紹介でスイスへ渡航。10年には、合気道多田塾サン・モリッツ道場を開いた。17年に帰国したが、今でも毎年1カ月ほどドイツとスイスに滞在し、稽古・指導を行っている。「合気道の考え方や呼吸法は、日常生活に生かせる」と語る美喜子さん。「仲間を増やしたい。そして、多くの女性にも興味を持ってもらいたい」と、合気道を通じた人づくりに情熱を燃やし続ける。

キラリ輝く
奥州人
5

合気道を通して 社会に貢献できる人づくり

菅原 美喜子さん（55歳）
前沢区白山字水ノ口



すがわら・みきこ◎昭和33年、前沢区白山生まれ。合気道多田塾奥州道場を開校。前沢、江刺、一関で稽古・指導を行う、(公財)合気会6段。中学と高校体育の教員免許を持つ。家族は両親とネコのキキ



《今月の表紙》

特定非営利法人復興支援奥州ネット（千田敏彦理事長）が主催する「大正琴勉強会」が3月6日、メイプル地下にある「ホーブラザ奥州」で行われました。

この勉強会は、東日本大震災によって沿岸地域から市内へ避難している人を対象に定期的に開催。大正琴を学びながら、参加者のみんなが交流することを目的としています。

この日は7人が参加し、和気あいあいとした雰囲気の中で、楽しそうに演奏。震災から3年が経過し、みんなの笑顔に戻りつつあります。

CONTENTS

- 2 キラリ輝く奥州人
- 3 【特集】
母校の歴史を胸に――
～未来に向けた新たな歩み～
- 8 宝くじ助成で地域づくりを
消費税率改定による水道・
下水道料金の経過措置
- 9 下水道料金調整届け出を
百歳おめでと
2014 オープンガーデン
- 10 地域6次産業化のススメ
- 11 希望郷いわて国体・いわて
大会
- 12 I L C希望のひかり
- 13 結-ゆい-
- 14 市民劇 グラフ-笑いあり
涙あり感動の市民劇
- 16 地域の窓-自治区情報-
- 17 市政ズームイン
- 18 まちの話題
- 20 夢トーク
青春讃歌
- 21 雨の日も晴れの日も
姉妹都市 掛川だより
- 22 我が家のアイドル
子ども喜ぶ人気メニュー
- 23 子そだて広場
子そだて行事予定
- 24 情報あらかると
- 28 奥州遺産